



ハートコール・えひめ

響

(ひびき)

発行 チャイルドラインハートコール・えひめ
〒790-0808 松山市若草町 8-2
松山市ボランティアセンター気付
Tel 089-923-9558 Fax 089-916-9710
E-mail heart-call@kke.biglobe.ne.jp
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~heart-call/>
発行責任者 染川 まどか
発行者 染川 まどか
編集者 三好 久恵

NO. 174

2022年度総会報告

2022年5月8日(日)10時より松山市総合福祉センターにて、3年ぶりに総会を開催することが出来ました。正会員41名の内、出席者12名、委任状20名で、定足数22名を満たし総会は成立しました。2022年度がスタートします。引き続きご支援よろしく願いいたします。

第1号議案 2021年度事業報告

第5号議案 2022年度正会員会費の減額

第2号議案 2021年度収支決算報告

第6号議案 2022年度役員改選案

第3号議案 2022年度事業計画

第4号議案 2022年度収支予算

全て承認されました。

◇2022年度事業計画

- ・傾聴による子ども電話開設
- ・カード配布 キャンペーンカード、常設カード年2回県内小・中・高校配布
- ・社会啓発活動
- ・機関紙「響」年4回発行
- ・全国、中四国のチャイルドラインと交流、ネットワーク活動
- ・他機関との交流、ネットワーク活動
- ・第22期受け手養成講座開催
- ・継続研修開催
- ・支え手研修開催
- ・運営委員会開催
- ・祝休日電話相談事業
- ・「イオンの黄色いレシートキャンペーン」開催のお知らせがあれば参加
- ・「福祉センターまつり」開催のお知らせがあれば参加
- ・応援団員を募る

ご支援ありがとうございます

2021年度1年間にご寄付くださった方

高下道子様、国際ソロプチミスト松山様、杉山 洋様、川口梅子様、渡邊裕梨様、村上由美子様、佐伯京子様、三好千代香様、飯尾恵子様、松尾達子様、田辺恵理子様、藤原慎也様
皆様ありがとうございます。大切にに使わせていただきます。



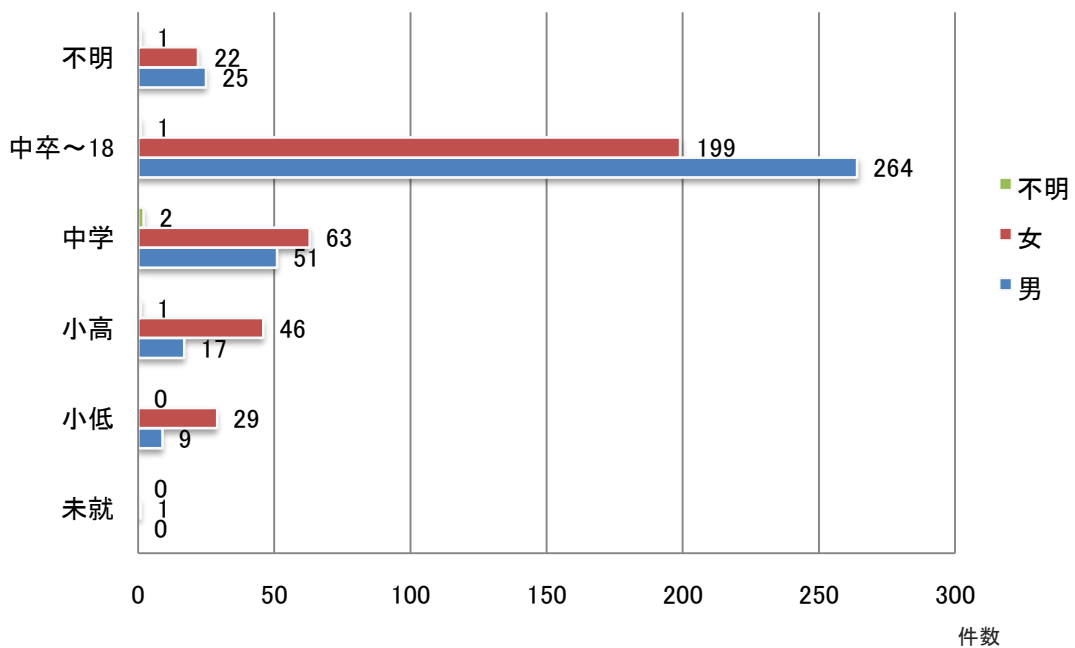
チャイルドライン&子ども電話「ひびき」 1年間の統計 (2021.4.1~2022.3.31)

電話概要

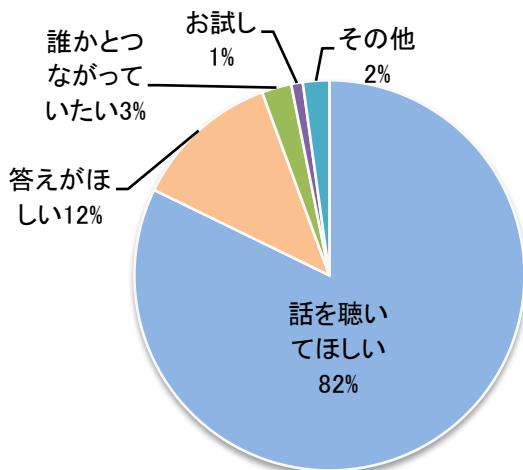
【総着信数】 2,783件
 【会話成立数】 765件
 【開設日数】 71日
 【20年間の総合計】 50,005件(2002年3月~)



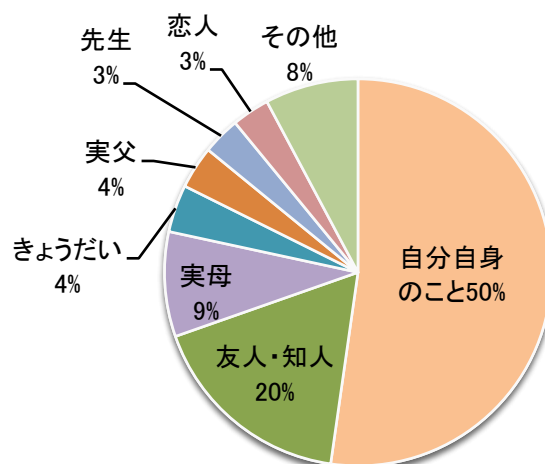
【男女年齢別会話成立数】



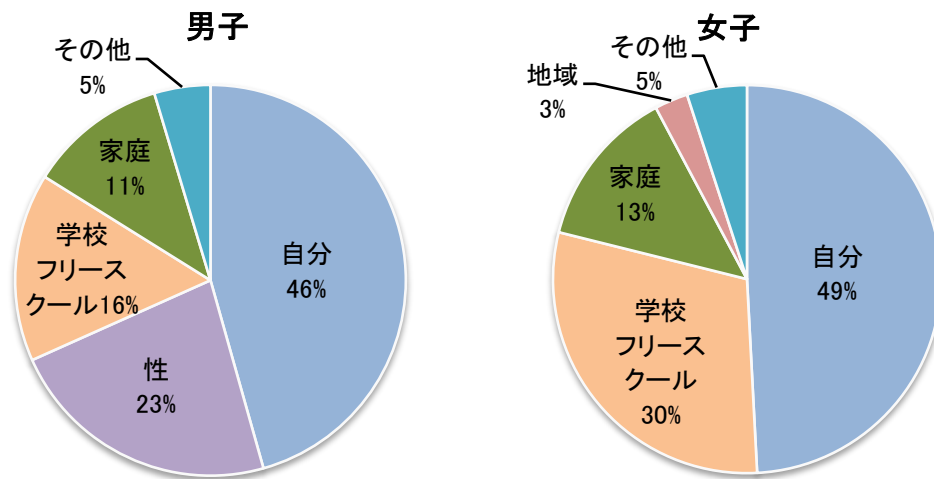
【電話をかけてきた動機】



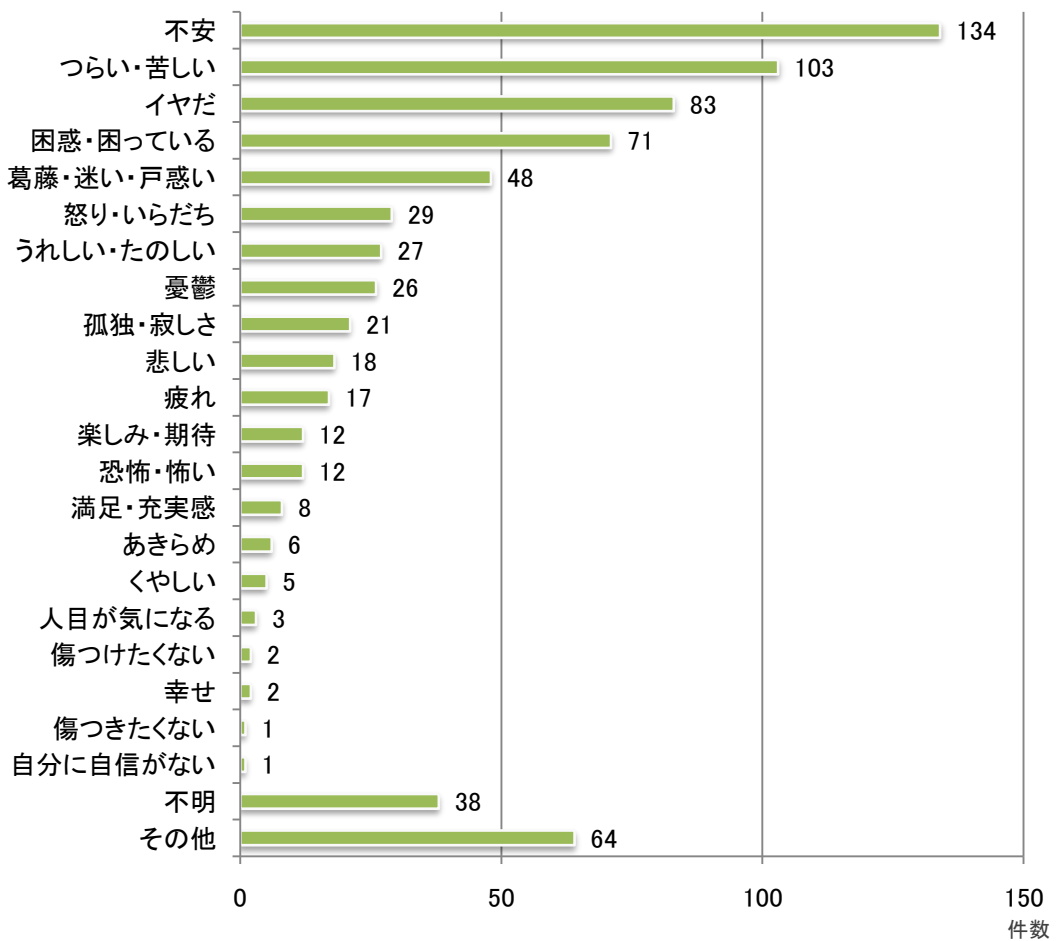
【誰との関係で】



【電話内容】



【かけてきた子どもの気持ち】



全国研修会

2022年3月19日（土）13時～ zoomにて開催

内容「子どもの権利と子どもを取り巻く状況や新しい視点の学びを深める

～子どもの権利が保障される社会の実現に向けて～

講師 金子由美子氏 テーマ「コロナ禍で顕在化した子どもの生きづらさ」

感想

- ・いじめの裏側に性に関することが隠れていることを意識して電話をとる事は大切だと思いました。子どもの世界を深く知ることができ、以前よりも子どもに近付いた気がしました。(M.M)
- ・多岐にわたる問題点を、分かりやすく解説して頂いたので、いかに現代社会に問題点が多く、それが即子どもたちの問題にもなっている、ということを再認識することができました。友だち神話、ボッチが怖い、親友神話など、子ども世界の生きにくさを改めて考えることが出来ました。(I.M)
- ・リモート参加の欠点でしょうが、どうしても平面的になってしまった。対面の講演であれば、もっと迫力や伝えたい事が頭に入ってきたと思います。仕方ない事なんですけど…。同じチャイルドラインの活動でも地域が違えば、これ程考え方が違うのかという事を痛感しました。もちろん、同じ方向を向いている事もあります。自分たちの活動を俯瞰的に見る上でも、他団体と定期的に意見交換をする事は必要だなあと感じました。「自分たちの事は自分たちで決めた」と心から実感できることが大切だと思います。家庭ではどうしても親の言う事が優先されます。学校ではどうか？先生たちは「みんなで一緒に考えて決めましょう」と言うけれど、結局着地点へ導いたり、ひどい時は却下でした。靴下の色は自由と皆で決めた事であれば、それが現実となる社会が必要だと思います。そこには家庭や学校の協力が必要です。そのような発信がチャイルドラインとして出来ればと思います。皆で決めた事で、実現すればワクワク、ドキドキ楽しいではないですか、失敗もいっぱいするだろうし。(K.O)



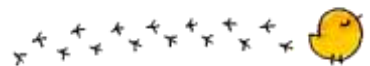
3月 受け手のための継続研修

2022年3月27日（日）10時～ 松山市総合福祉センター 参加者12名

講師 村上由美子氏・越智清子氏 テーマ「もう一度傾聴を学ぶ」

感想

- ・話を聴く前に、自分のありのままを認め、受け入れ、誠実に、冷静に、客観的に自分自身を見つめる努力をしなければ。相手に自分の気づく事を促している以上、こちらも率先して自己の気づき高める努力をしなければという自己理解の大切さなど又いちから始めなければと思いました。(K.K)
- ・子どもたちの生の声が聴ける、その貴重な時間が好きでこれまで続けてこられました。受容・共感の気持ちや、傾聴の技術を大切に又机の前に座りたいと思います。(I.M)
- ・諸事情で受け手としての場所に立つことが随分経ったような気がします。今回の研修を受けて気づくことが出来ました。又ここからスタートしようと思います。(M.M)
- ・傾聴は本当に深いと思いました。自分自身のあり方、生き方、考え方を見つめ直すものなんだと思いました。(S.I)
- ・今回印象に残ったのは「人は嫌なことは忘れない、それは、傷ついているから覚えている。話を聴いてもらうと、その嫌な思いが刺激されて緩和する。そして、忘れる方にその嫌なことを入れてあげることが出来る。」というお話です。それと、私は電話の中でついついアドバイスをしてしまいます。自分では子どもの気持ちを受けとめているつもりでしたが、実は自分自身がスッキリしたくてアドバイスをしているんだということがわかりました。そのことを意識して電話をとってみようと思います。(M.I)



※書面上「ハートコール・えひめの20年 パート6」は次回に、「編集後記」は割愛させていただきます。次回また読んでください。